

様式 (6)

## 学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 2856 号	氏 名	加 治 早 苗
審 査 委 員 会	主 査 教 授	亀 岡 信 悟	
論文審査の要旨 (400 字以内)			
<p>論文のタイトルは“Clinical impact of pathological sub-classification of colorectal mucinous adenocarcinoma (大腸粘液癌における病理学的亜分類の臨床的意義)”である。【目的】大腸粘液癌は大腸癌のなかの組織型亜型であるが、予後予測因子としての臨床的な扱いは確立されていない。本研究では粘液癌における非充実型低分化腺癌、印環細胞癌に由来する成分 (以下: PCC) を含むか否かに着目して、病理学的に亜分類を行い、この臨床的意義を明らかとすることを目的とした。【対象および方法】教室で経験した 1991 年～2005 年までの stage II、III 根治手術症例のうち粘液癌 (以下: MC) 27 例と非粘液癌 831 例 (以下: NMC) を対象とした。PCC を含む MC (以下: MCP) と PCC を含まない MC (以下: MCNP) 別に病理学的に亜分類を行った。粘液癌の亜分類別に臨床病理学的因子、全生存率 (以下: OS) および無再発生存率 (以下: RFS) について比較検討した。【結果】MC の 5 年 OS および 5 年 RFS はそれぞれ 70.6%、63.8% で、NMC は 81.2%、82.1% であり予後に有意差を認めなかった。MC 27 例のうち MCP は 22 例 (81.5%)、MCNP は 5 例 (18.5%) であった。stage II での RFS は MCP が MCNP+NMC より有意に予後不良であった (5 年 RFS MCNP+NMC 87.3% MCP 57.1%、<math>p=0.01</math>)。また stage II では多変量解析では MCP が独立した再発リスク因子として抽出された。【結 論】粘液癌の亜分類により MCNP は予後良好であり、MCP は NMC および MCNP に比べて予後不良であることが判明した。さらに stage II において MCP は独立して有意な再発リスク因子であった。</p> <p>以上、基礎的、臨床的に価値ある論文と認める。</p> <p>本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に学務部医学部大学院課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表) [学校教育法学位規則第 8 条]</p>			